



徳川家康公のふるさと

岡崎公園ガイドマップ

Okazaki Park guide map

岡崎公園は、徳川家康公が生誕した岡崎城の城跡を公園にしたもので、岡崎城や三河武士のやかた家康館を中心とした岡崎市を代表する歴史と文化の公園です。面積は、約10ヘクタールあり、広大な園内には、旧城そのままの白亜の天守閣がそびえ、城壁、内堀や家康公ゆかりの史跡等も多く、家康公と三河武士の生きざまを展示した歴史資料館三河武士のやかた家康館などがあります。さらに、二の丸能楽堂、巽閣、茶室葵松庵・城南亭、からくり時計、徳川家康公銅像、龍城神社、元康像、五万石ふじなど、みどころいっぱいの公園です。

◇ 公園内施設

1 岡崎城 (天守)



天守石垣や礎石などの遺構に関するものから、ジオラマやプロジェクションマッピングなどを交えて岡崎城の成り立ちをはじめ、武士と庶民の暮らし、そこから花開く岡崎の文化や伝統産業などを紹介しています。

- 開館時間 午前9時から午後5時(入館は4時30分まで)
- 休館日 12月29日～31日
- 入館料 大人(中学生以上) 300円
小人(5歳以上) 150円
- お問合せ (0564)22-2122

2 三河武士のやかた家康館



常設展示室では、徳川家康公の生涯と天下統一の道を支えた三河武士を顕彰・紹介しています。また、第1、第2展示室では収蔵品や三河の歴史文化に関する企画展を年に数回開催しています。

- 開館時間 午前9時から午後5時(入館は4時30分まで)
- 休館日 12月29日～31日
- 入館料 大人(中学生以上) 400円
小人(5歳以上) 200円
- お問合せ (0564)24-2204

◇ お問合せ

〒444-0052 愛知県岡崎市康生町561番地1
岡崎公園(岡崎城・三河武士のやかた家康館)
岡崎公園指定管理者
一般社団法人 岡崎パブリックサービス (0564)24-2204
岡崎市役所公園緑地課
(0564)23-6250



岡崎公園の詳細はコチラ



岡崎公園の見どころ

1 岡崎公園の桜

白亜の天守を囲んで乙川、伊賀川沿いに咲き誇る春の桜は見事で日本の「さくら名所100選」にも選ばれているほど。桜まつりの時には多くの人々が訪れ、メインイベントの家康行列や、夜桜では800本の「ソメイヨシノ」ライトアップをお楽しみいただけます。



2 五万石ふじ

岡崎公園のふじは「五万石ふじ」と呼ばれ、令和4年(2022)1月に愛知県天然記念物に指定されています。推定樹齢120年以上の古株は、幹周り2.4メートル、枝は11メートル、花穂が長く1メートルほどのものもあります。その棚の広さは約1300平方メートルに及び、4月下旬から5月初旬には、優美な花をお楽しみいただけます。



🚗 駐車場案内

岡崎公園駐車場が満車の際は、PPParkで他の駐車場をご検討ください。近辺の駐車場情報・空き情報はQRコードからご確認ください。



交通機関

JR	東から	ひかり1時間25分	豊橋	20分	岡崎	自家用車 ・東名高速道路岡崎I.C.より 名古屋方面へ3km(国道1号沿い)
	西から	のぞみ50分	新大阪	30分	岡崎	
名鉄電車	名古屋	30分	東岡崎	20分	豊橋	徒歩 ・名鉄東岡崎駅より康生町下車 (バス5分)+徒歩5分 ・JR岡崎駅より名鉄東岡崎駅下車 (バス10分)+徒歩15分
	新大阪	のぞみ50分	名古屋	30分	東岡崎	

案内図



※名古屋方面から岡崎公園乗用車駐車場に駐車される方は矢印に沿って進行してください。

◇ 公園内施設

3 岡崎城二の丸能楽堂



MAP A-2

岡崎城の二の丸があった場所に建てられた本格的な屋外能楽堂です。能をはじめとした各種古典芸能のほか、舞台は楽器演奏会・発表会等の各種催し物でご利用いただけます。

4 茶室 城南亭・葵松庵



MAP B-3

四季折々に表情を変える岡崎公園の景色と日本庭園を楽しめる施設で、日常と離れた静けさを感じられます。広々とした和室の城南亭をはじめ、本格的なお茶会も行える葵松庵では、茶会をはじめとした各種集會・会議・教室の場としてご利用いただけます。

5 巽閣



MAP B-2

本丸の辰巳櫓跡に建てられた巽閣では、春は桜、夏は花火と岡崎公園の魅力を身近に感じることができます。40畳の大広間では和室を活かしたくつろぎの空間で、各種集會や教室・会議等が行えます。

6 龍城神社



MAP B-2

岡崎城天守閣の隣に鎮座する神社です。家康公生誕の朝、城楼上に雲を呼び風を招く金の龍が現れ、昇天したという伝説が残るパワースポットです。龍の井は、龍神があらわれこの井戸の水が噴出したと伝えられています。

7 多目的広場



MAP C-2

多くの市民が憩う、様々なイベントや出店が可能なお場所です。周辺環境の調整を図りながらくつろぎスペースとして活用されます。



もっと岡崎、きっと家康

◇ 岡崎公園 見どころ

3 大手門



MAP B-1

この大手門は、岡崎公園の表玄関にふさわしい建物として、平成5年(1993)に建築しました。(高さ11m、幅16.4m、奥行6.3m)石垣には地元産の御影石を使用し、入母屋造りの屋根には江戸物本瓦が葺かれています。本来の岡崎城大手門は、現在の浄瑠璃寺の南(北東約200m)にあり、江戸時代の記録によれば大手門は「桁行十間、梁行二間四尺」でした。

6 徳川家康公銅像



MAP B-2

家康公は、天文11年(1542)12月26日、岡崎城内の坂谷の邸(現在の二の丸から坂谷曲輪周辺)で生まれました。幼少のころは人質として岡崎を離れますが、自立した後は岡崎に戻り全国統一をめざして転戦を続けました。そして、慶長5年(1600)に天下分け目の関ヶ原の合戦で大勝して、天下をおさめるに至りました。その後、250年つづく徳川政権「江戸幕府」の基盤をつくり、元和2年(1616)4月17日に75歳でこの世を去りました。この銅像は高村泰正の制作で、昭和40年(1965)「家康公350年祭」を記念して建てたものです。

4 からくり時計



MAP B-1

三河武士のやかた家康館前の広場にある高さ約6mの時計塔。能を舞う家康公の人形が登場し見る人の心をなごませます。毎時00分・30分に能を舞い、遺訓を語ります。

7 松平元康像



MAP B-2

この元康像は平成4年(1992)に開催された「家康公生誕450年祭」の一環として設置されました。若き元康(徳川家康)の騎馬像は城を背にし、大権現として再生する日光東照宮の方角を向いています。背景の石垣と滝は治世を象徴し、元康が胸に秘めた国盗りの夢が、生誕の地、岡崎の土から盛り上がる様を表しています。

5 花時計



MAP B-1

この花時計は昭和35年(1960)3月に完成し、以降動き続けています。中央文字盤の花壇には四季を通じ、草花の植替えを行います。時計は1/10馬力の直流モーターで動いています。

8 東照公産湯の井戸



MAP A-2

天文11年(1542)12月26日に岡崎城内で誕生した竹千代君(家康公)の産湯にこの井戸の水が用いられたことから開運スポットにもなっています。平成27年(2015)に井戸の水を汲み上げ直接水に触れるようになりました。

9 東照公えな塚



MAP A-3

家康公のえな(へその緒・胎盤)を埋めたと伝えられる塚です。古来、日本ではえなを埋めて子どもの成長を願ったといわれ、生誕時の喜びと祈りの込められたスポットとされています。

13 清海堀



MAP B-2

歴史的にも価値の高い空堀。城を築いた西郷頼嗣(清海入道)の名から清海堀と呼ばれています。本丸北防衛のために設けられました。

15 神橋



MAP B-3

堀を渡る神橋は正面に岡崎城を臨み、絶好の撮影スポットとなっています。

10 本多平八郎忠勝公銅像



MAP B-1

本多忠勝は徳川四天王のひとりで、「家康に過ぎたるもの」「天下無双の勇士」と称賛された武将で子孫は岡崎藩主となりました。この像は鹿角兜と甲冑で身を固め、名槍蜻蛉切を携えています。

14 龍城堀



MAP B-3

龍城堀は本丸南を守る水堀で、木々の緑の中に神橋の朱色が美しく映え、噴水の水辺は訪れた人の憩いの場所となっています。

17 三の丸井戸



MAP B-1

堀を渡る神橋は正面に岡崎城を臨み、絶好の撮影スポットとなっています。

16 東隅櫓



MAP C-1

この東隅櫓は、かつて東曲輪だった場所の南東角に位置し平成22年(2010)3月に再建されました。城の中核となる二の丸に繋がる切り通しを守る最後の塔で、明治初頭まで存在していました。「望楼式二重櫓」と呼ばれる)木造2階建て、入母屋造りの屋根は、岡崎藩主を務めた本多氏の家紋立葵が刻まれた本瓦葺きです。壁は白漆喰塗り、高さ約9.4m。

18 家康公遺言碑



MAP A-2

この東隅櫓は、かつて東曲輪だった場所の南東角に位置し平成22年(2010)3月に再建されました。城の中核となる二の丸に繋がる切り通しを守る最後の塔で、明治初頭まで存在していました。「望楼式二重櫓」と呼ばれる)木造2階建て、入母屋造りの屋根は、岡崎藩主を務めた本多氏の家紋立葵が刻まれた本瓦葺きです。壁は白漆喰塗り、高さ約9.4m。



A お抹茶・甘味
城南亭立礼席
四季折々に表情を変える岡崎公園の景色と日本庭園を見ながらの一品を堪能できる立礼席。人気のメニューの抹茶白玉ぜんざいは絶品です。
休 第2・4月曜日(1月除く)
12/28~1/3
☎ (0564) 26-1939

B 観光みやげ店
おかざき屋
「おかざき土産」と言えばココ、おかざきをぎゅっと詰め込んだ「選べるワクワク」で楽しいお土産店です。
営 2024.2/9~
2024.12末(予定)
9:30~16:30
休 年末年始
☎ (0564) 24-4771

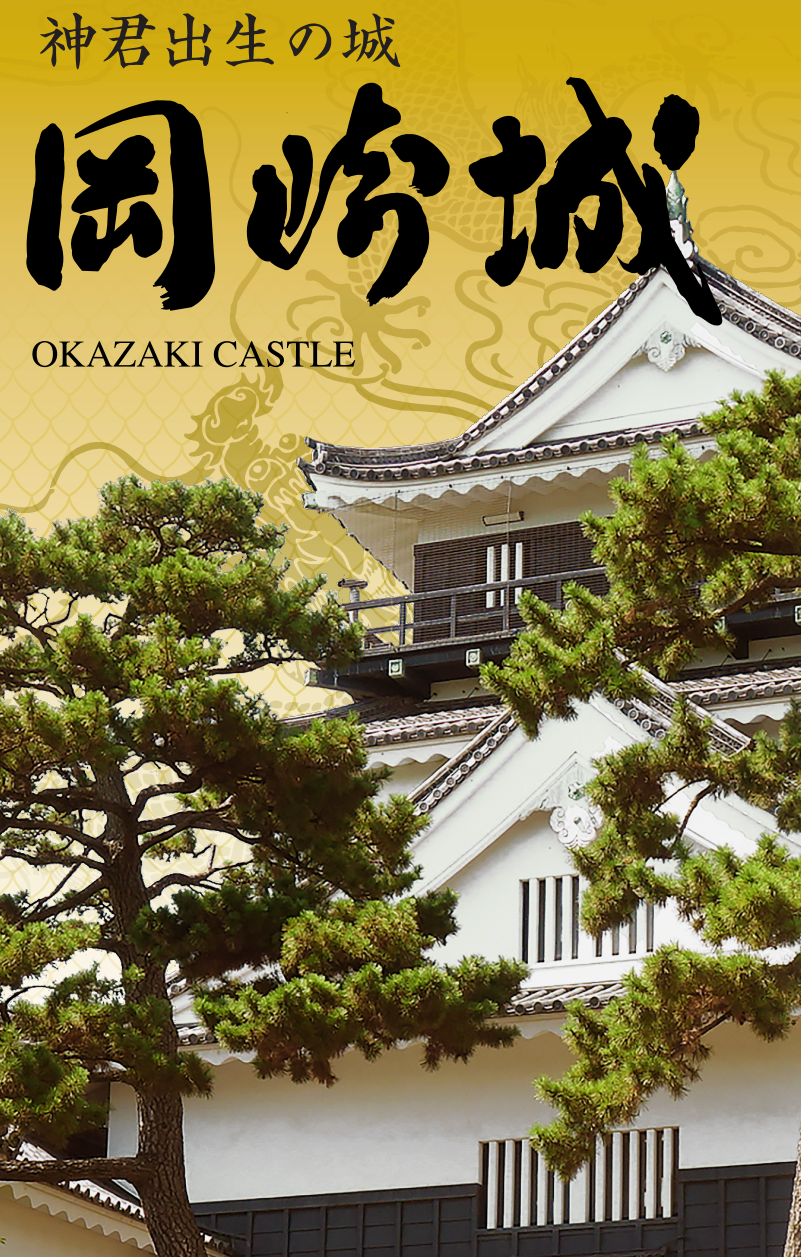
C 売店
ひょうたんや
八丁味噌牛すじ、こんにやくおでん、五平餅が絶品です!!
休 不定休
☎ (0564) 23-5986

D 日本料理
八千代本店
創業130年を超える和食の老舗。地元名産八丁味噌を使い、備長炭で焼き上げた名代「木の芽田楽」は、八千代本店が代々伝承してきた、ここでしか味わうことができない秀逸な一品です。
休 毎週火曜日
☎ (0564) 22-0267

E お休み処
桜茶屋
岡崎の赤味噌の味噌煮込みうどんや、じっくり煮込んだどて煮が人気。甘味メニューも豊富で、みたらし団子や五平餅、半蔵餅など、テイクアウトもOKです。
休 毎週木曜日
☎ (0564) 21-5985

F 八丁味噌料理・甘味
いちかわ
岡崎城隠居曲輪にある八丁味噌料理と甘味のお店です。四季を通じて楽しめる龍城堀を眺めながら郷土の味を気軽に楽しめる創業90年の老舗です。
休 毎週水曜日
☎ (0564) 22-2479





神君出生の城

岡崎城

OKAZAKI CASTLE



神君出生の城

別名	龍城・龍ヶ城
種別	平山城
築城者	西郷頼嗣(頼頼)
築城年	享徳元年(1452)～ 康正元年(1455)
構造	鉄筋コンクリート3層5階 (昭和34年復興天守)

岡崎城の沿革

岡崎城の起源は15世紀中頃までさかのぼる。明大寺の地に西郷頼嗣(頼頼)によって築城されたのがそのはじまりである。その後、享禄4年(1531)に松平清康(家康の祖父)が龍頭山と呼ばれた現在の位置に移して以来、ここが岡崎城と称されるようになった。

天文11年(1542)12月26日、徳川家康は、ここ岡崎城内で誕生した。家康は、6歳で織田信秀(信長の父)、8歳で今川義元の人質となり、少年期を他国で過ごしたが、永禄3年(1560)の桶狭間の合戦で、今川義元が戦死したことを契機に自立した。ときに19歳。以来、岡崎城を拠点に天下統一という偉業への基礎を固めた。

元亀元年(1570)、家康は本拠を遠江浜松(静岡県浜松市)に移し、嫡男信康を岡崎城主とした。天正7年(1579)に信康が自刃したあとは、重臣の石川数正、ついで本多重次を城代とした。天正18年(1590)に家康が秀吉によって関東に移されると、秀吉の家臣田中吉政が城主となり、城下町を堀で囲み総構えとした。家康が江戸に幕府を開いてからは、譜代大名にここを守らせた。

江戸時代、岡崎城は「神君出生の城」として神聖視され、本多氏(広孝系統)、水野氏、松平(松井)氏、本多氏(忠勝系統)と、家格の高い譜代大名が城主となった。石高こそ5万石前後と少なかったが、大名は岡崎城主になることを誇りにしたと伝えられる。元和3年(1617)本多康紀のときには、三層三階地下一階で、東に井戸櫓、南に附櫓をもつ複合天守に再建された。

明治維新を迎えると情勢は変わり、新しい時代には不要とされた城郭の大部分は明治6～7年(1873～74)にかけて取り壊されてしまった。

このあとは、堀と石垣が昔日の面影をわずかに伝えるばかりであったが、岡崎の象徴である天守がないままではしのびないとする市民の思いは強く、昭和34年(1959)に、ほぼ昔どおりの外観の天守が復興された。いにしえ、東海道を往来する旅人が仰ぎ見たであろうその姿を、今我々も眺めることができる。



総構えとは、城郭主要部の内郭および街道で結ばれる城下町を含む外郭と合わせた城郭構造のことをいう。田中吉政は天守創建や主要地点の石垣化などの他、岡崎城に「田中堀」と呼ばれる総堀を構築した。東側は谷地形、西側は河川などを利用して整備し、北側は台地上に堀を開削して総堀とした。岡崎城の総構えは、東西約1.5km南北約1kmに及ぶ広範囲なものである。

歴代岡崎城主(城主期間)

西郷頼嗣 (頼頼)	松平光重	松平信貞 (西郷信貞)	松平清康	松平広忠	—— 今川氏城代 ——	徳川家康	松平信康	—— 徳川氏城代 ——	田中吉政	本多康重	本多康紀	本多忠利	本多利長	水野忠善
1676～1692	1692～1699	1699～1730	1524～1535	1535～1549		1560～1570	1570～1579		1590～1600	1601～1611	1611～1623	1623～1645	1645 承すぐ移封	1645～1676
水野忠春	水野忠盈	水野忠之	水野忠輝	水野忠辰	水野忠任	松平康福	本多忠肅	本多忠典	本多忠顕	本多忠考	本多忠民	本多忠直		
1676～1692	1692～1699	1699～1730	1730～1737	1737～1752	1752～1762	1762～1769	1769～1777	1777～1790	1790～1821	1821～1835	1835～1869	1869～1871		
													—— 鹿藩置県 ——	

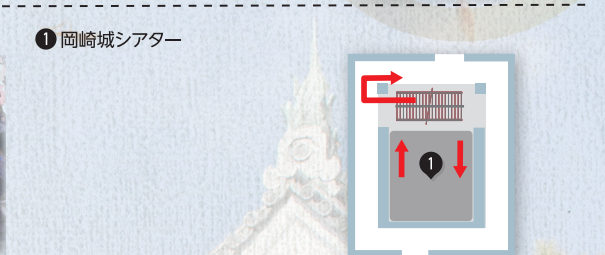
5F 展望室 天守からの眺め

最上階からは、徳川家康を育んだ三河の山河や岡崎城下が望めます。岡崎城下まち歩きのご案内コーナーもあります。



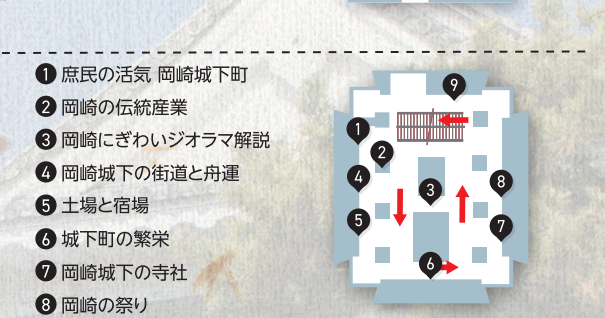
4F 岡崎城シアター

岡崎城総構えを歩くと、江戸時代の城下町の映像が現れタイムスリップ。壁3面+床面に投影された、没入感のある美しい映像と音響が楽しめます。



3F 庶民の活気 岡崎城下町

五万石の岡崎城を支えた城下町のくらしと文化を紹介。現代に技術を伝える石工、八丁味噌、花火などの伝統産業に関する資料を展示。



2F 家康が生まれた城 岡崎城

岡崎城の成り立ちと造りを紹介。岡崎城の特徴を城郭模型と城絵図で楽しく学べます。刀剣や発掘調査の出土品も展示。



1F 天守台穴蔵と心礎・用材

岡崎城天守を支えた天守台石垣の穴蔵と心礎が、江戸時代の姿を伝えます。(※礎石が現存するのは、岡崎城と姫路城のみ) 城内建物に使われた鯨瓦や用材も展示しています。



利用の案内

◆入館料

		大人 (中学生以上)	小人 (5歳以上)
岡崎城	一般	300円	150円
	団体(20人以上)	240円	120円
	割引	250円	120円
三河武士のやかた 家康館	一般	400円	200円
	団体(20人以上)	320円	160円
	割引	350円	170円
岡崎城・三河武士の やかた家康館 2館共通	一般	650円	320円
	団体(20人以上)	520円	260円
	割引	550円	270円

岡崎市民 ※高校生以上		
岡崎城	市民割	150円
三河武士のやかた 家康館	市民割	200円

※岡崎市民は、団体割引、2館共通割引なし

以下の方は入場が無料となります。お申し出ください。

5歳未満、身体障がい者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳、戦傷病手帳、被爆者健康手帳、岡崎市避難者支援サービスWithカード所持者、市内に住所のある中学生以下のかた、または65歳以上のかた



- ◆ 駐車場 有料駐車場(詳細はホームページをご確認ください。)
- ◆ 開館時間 午前9時～午後5時(入館は4時半まで)
- ◆ 休館日 年末(12月29日～12月31日)
- ◆ 所在地 〒444-0052 愛知県岡崎市康生町561-1・岡崎公園内

岡崎城 TEL:(0564)22-2122
FAX:(0564)22-2201

家康館 TEL:(0564)24-2204
FAX:(0564)24-2247

◀ 岡崎公園関連リンク集
<https://lit.link/okazakipark>



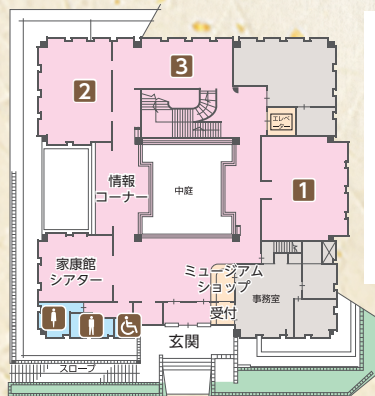
ごあいさつ



三河武士のやかた
家康館名誉館長
とくがわ いえひろ
徳川 家康
(徳川宗家19代当主)

徳川家康公がその基礎を築いた江戸時代は、世界史上希な長い内外の平和を実現したこと、そして現代日本文明の原型が出来上がったということで、その重要性がいよいよ認識されるようになっていきます。

ここ「三河武士のやかた家康館」の展示を通じて、戦国乱世を必死で生き抜いて、ついには平和を実現した家康公と、家康公を支えた三河武士団の生々しい躍動を、そして三河武士団の質実剛健の気風を感じ取っていただければ、真に幸いです。



- 1 企画展示室1 (特別展示室)
- 2 企画展示室2
- 3 回廊展示コーナー

当館が所蔵する資料や、家康をはじめ三河武士に関連する企画展等を開催します。



常設展示室

3 家康の自立と三河平定

桶狭間の戦いで今川義元が戦死すると、家康は岡崎城に戻り、自立します。翌年には今川氏を離れ、織田信長と手を結ぶ決意をします。永禄6年には元康から家康に名を改めます。その後三河一向一揆、三河全土の平定、徳川への改姓を経て、名実ともに戦国大名の確固たる地位を築き上げたのです。ここではその過程について紹介します。

4 織田・豊臣政権下の家康

三河平定後、遠江を制した家康は居城を浜松に移し、武田信玄との抗争に入ります。信玄、信長の死後、甲斐・信濃の計略に成功し、家康は五ヶ国を領国とする大名となりました。その後、羽柴(豊臣)秀吉に臣従しますが、秀吉が亡くなると関ヶ原の戦いに勝利し、天下人の立場を確かなものとししました。ここではその過程を紹介し、またジオラマシアターにて、関ヶ原の戦いを再現します。

家康が語る 決戦! 関ヶ原

これまでも人気のあったジオラマシアターを、家康が語るストーリーに刷新しました。家康をより身近に感じていただくとともに、ダイナミックな映像とプロジェクションマッピングを用いた迫力のある演出で、合戦の流れをわかりやすくご覧いただけます。

2 家康の出生から駿府在住時代

家康は松平広忠の嫡男として岡崎城で生まれ、竹千代と名付けられました。家康は6歳から19歳までの12年間、織田氏と今川氏のもとで暮らすことになりました。松平領はその枠組みを残しつつ、今川氏の領国に組み込まれました。ここでは松平氏にとって激動の時代であった家康の幼少期について紹介します。

1 松平氏と譜代家臣の形成

徳川家康の祖・松平一族は、賀茂郡松平郷の松平親氏を初代とします。ここでは親氏から家康の祖父である清康までの人物像と、三河譜代について紹介します。



6 人間家康と神君家康

家康の一生は武勇のみならず、活字印刷の出版事業や平和外交など為政者としての活動のほか、鷹狩り、健康への指向など個人趣味まで、様々なことで彩られています。これからは家康の人となりを知ることができます。家康は死後、神格化され東照大権現として東照宮に祀られます。ここでは「人間家康」と「神君家康」それぞれの一面をご覧いただけます。

体験コーナー

火縄銃や長槍などの模型を設置し実際に取り重さを体感できます。また、兜の模型をかぶっての記念撮影もいただけます。

7 家康の人となり - その伝承と実像

家康の生誕地であり、青壮年期を過ごした岡崎には、家康にまつわる逸話や伝承が多く残っています。また、浜松・駿府に移ってから亡くなるまでの人となりを伝える説話集や言行録が、江戸時代を通じて数多く編纂されました。これらは、教訓的・通俗的なものも多いのですが、私たちの想像する家康像はそれらから作り上げられた部分が大きいのです。ここではその一部を紹介します。



徳川家康画像(部分) 岡崎市長



金陀美具足(複製)